

姉の笑顔

鹿児島市立天保山中学校1年 池山 菜桜

今日も姉が施設から嬉しそうに笑顔で帰って来た。「い、い。」と明日も行きたいと私に言ってくる。話ができない姉は最初の一言で自分の気持ちを伝えてくるのだ。二十一歳になった姉には重度の知的障害があり毎日、施設に通っている。得意の手芸をしたり、お友達と公園の清掃をしたり楽しい時間を過ごしている。夜に父が帰宅すると、姉が連絡帳を持って来る。その日の様子を声に出して父が読み、家族で姉の話題で会話もはずむ。これが我が家の日常だ。

小学校の社会の授業で国民の義務の一つに税金を納める義務を習った。税金という言葉はもちろん知っていたが、税金について調べてみると知らないことばかりだった。姉の通っている施設の福祉サービスは税金での補助があるからこそ毎日利用することができるを知った。税金がなければ高額な利用料になるため毎日通うことは難しい。そうなる姉のあの嬉しそうな笑顔も少なくなるだろう。そして、姉は一人で留守番が難しいため両親が毎日働くこともできなくなる。我が家の日常は税金のおかげで成り立っているのだと感じた。

消費税しか払うことがない私にとって税金は学校で習うまで自分には、あまり関係ないと思っていた。けれども、授業で学んだことをきっかけに税金について調べてみると、様々なところで使われていることを知った。蛇口をひねれば出てくるきれいな水、毎日出るゴミの処理、楽しく通っている学校。身近にたくさんの税金が使われていることを知り驚いた。

消費税は今まで、ない方が良かったと感じていた。百円の商品を買う時に十パーセントの消費税がかかると百十円払うことになる。大切なお小遣いが十円減ってしまい、損をした気分になっていたからだ。でも、税金がどのように使われているかを知り、納めようという気持ちに変わった。毎日当たり前と思っていたこの生活は税金で成り立っていると気付いたからだ。一方で大切に欲しかったという気持ちもわいてきた。だからこそ税金がどのように使われているか、これからも関心を持っていこうと思う。

今日も姉が嬉しそうに施設に行く準備を始めている。夏休みになり朝は姉の方が早く家を出ることが多くなった。「行ってきます。」と言葉で言えない代わりに姉は笑顔で手を振ってくる。私はその姉の笑顔が大好きだ。いつまでもこの笑顔を見ていたい。大切な税金が姉の日常に使われていることに感謝をし、この気持ちを忘れないでいたい。

今は消費税しか払う機会がない私だが大人になったら、しっかり税金を納めていきたい。税金は誰かを助け笑顔にしているものであり、自分も助けられて笑顔をもらっているのだから。